

令和3年度東温市総合教育会議 会議録

開会の日時及び場所 令和3年8月3日(火) 午前10時00分
東温市庁舎 4階 大会議室

議事に出席した委員	東温市長	加藤 章
	教育長	八木 良
	教育委員	本田 隆彦
	教育委員	水岡 明美
	教育委員	清家 隆夫
	教育委員	大西 正志

議事に出席した職員	総務部長	渡部 祐二
	教育委員会事務局長	池田 隆太
	学校教育課長	橋本 武
	保育幼稚園課長	近藤 和明
	生涯学習課長	河端 徳明
	学校給食センター所長	近藤 照雄
	学校教育課長補佐	渡部 昌弘
	学校教育課指導主事	東山 淳志

傍聴人 (0名)

1 開会宣言 (10:00)

(事務局長) 開会を宣す。

2 市長あいさつ (10:00)

加藤市長 私が議長を務めさせていただきます。まず、開会にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。

加藤市長 それでは、改めまして、皆さん、おはようございます。本日はご多忙の中、またこのような猛暑の中、第1回東温市総合教育会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。また日頃から本市の教育行政の推進につきまして格別のご理解とご支援、ご尽力を賜りまして、重ねて感謝を申し上げる次第でございます。

ご案内のように、昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止策としまして、学校の一斉臨時休業などの措置を行いました。今年度は幸いにも、臨時休業などの措置は行わずに1学期が終了したところでございます。このコロナ禍におきましてはまだまだ収束の兆しは見えない訳ですが今後も万全の対策を取りながら子どもたちを守っていきたくと考えておりますので、よろしく願いいたします。

そして、国内におきましてはオリンピックを横目に緊急事態宣言の追加、また、蔓延防止等重点措置の拡大でありますとか、こういった最中で様々な行事・イベント等が縮小しながら進められているところでございます。

一方、本市におきましては、高齢者 65 歳以上のワクチン接種が 7 月末をもちまして希望される 9,498 人の方に接種がすべて完了したところでございます。今後は、基礎疾患をお持ちの方、60 歳から 64 歳までの希望される方に順次接種を進めているところでございますが、接種券を今後更に 40 歳代、30 歳代そして 12 歳以上の皆さんに次々と送付する計画にしております。ただし、ワクチンそのものが十分届く計画が見えない中での接種券の予約になりますので、年代別に注意しながら対応しなければならないというそういった中でご理解いただいたうえで、最後は子どもたちへの接種も十分注意しながら対応してまいりたいと考えております。

さて、この総合教育会議でございますけれども、教育委員会と市長が地域の教育の課題やあるべき姿を共有しながら相互に連携して教育行政を進めていくために開催しているところでございます。この会議を通じまして皆様のご意見を頂戴しながら教育委員会と市長が一層連携して教育行政の推進に当たりたいと考えております。

本日は、愛媛大学大学院教育学研究科教授露口健司先生をお招きして教職員の働き方改革につきましてご講演をいただき、その後露口先生を交えて意見交換を行いたいと考えておりますので、ぜひ忌憚のないご意見等を出していただきまして東温市の教育行政が更なる一步を踏み出したいと考えておりますので、本日はどうかよろしくお願い申し上げます。

協議（1）教職員の働き方改革について

加藤市長 それでは早速協議に入りたいと思います。

本日の議題は、「教職員の働き方改革について」でございます。初めに、愛媛大学大学院教育学研究科露口健司先生より「信頼関係と幸福感を高める働き方改革」と題しましてご講演をいただき、そのご意見交換を行いたいと思います。まず、事務局の方から露口先生のご紹介をお願いします。

池田事務局長 本日の講師であります露口先生をご紹介します。

露口先生は徳島県のご出身で、鳴門教育大学学校教育学部を卒業、九州大学大学院博士課程を修了され、その後九州共立大学助教授を経て現在は愛媛大学大学院教授としてご活躍中でございます。先生は人文社会、教育学がご専門で、学校組織におけるリーダーシップ、学校改善論、信頼とソーシャルキャピタルなどをテーマに研究を行っており、主な著書には、学校組織のリーダーシップ、学校組織の信頼などを含めて多くの著書がございます。

本日は、昨年11月に行われました愛媛県学校における働き方改革意識調査をもとに愛媛県内の現状についてお話しいただけるものと思っております。

加藤市長 それでは露口先生よろしく申し上げます。

講演

〈信頼関係と幸福感を高める働き方改革〉 ―働き方改革調査結果レポート―

加藤市長 ありがとうございます。アンケート結果を中心に詳しくご講演いただきました。

 それでは委員の皆さんから只今の説明についてご意見ご質問等ございましたらどなたからでも結構ですので申し上げます。

八木教育長 働き方改革というとき短をどうするかという検討を行い、ICT機器や校務支援システム等を導入して人的な支援もしてこれ以上の時短は難しいので後は精神的なものになる。しかし精神的な部分は数値化できないため、説明しても理解してもらえない。そういう意味で、今日のご講演を聴いて納得しました。先生が時短という心の問題に視点を変えられたいきさつを教えていただきたい。

露口教授 それは、自分に照らし合わせてですね。もし自分に時短の世界が来たら地獄絵図にしかたないですね。何から切り刻むかという、やはり研究の時間から刻んで、管理業務などが残ってしまいます。

 文部科学省から自己研鑽という枠を残してもらったのが大きかったと思います。何から時間を削っていくかと考えると、やりがいのある仕事から削っていく恐れがあります。中学校の教員であれば、一番力を入れていた部活の時間などやりがいのある時間を削らざるを得ない。先ほどのデータは高校のデータが多いが、やはり部活を頑張っていた先生の意気消沈ぶりが反映されているのかなと思っています。

八木教育長 勤務時間が長い先生は、学校中心で生徒会の指導などを行っている1年目から5年目ぐらいまでの若手のもっとやりたいなと思っている先生が多いので、アンケートの結果から納得しました。

加藤市長 他の委員さんはいかがでしょう。

 この後テーマ別にご協議を行いご意見をいただくようになっておりますので、これからは、露口先生も交えて意見交換をお願いしたらと思います。その前に事務局から東温市の教職員の働き方改革の取り組み内容について説明をお願いします。

橋本学校教育課長

私からは、教職員の働き方改革についての本市における主な取り組み内容をご説明します。資料1をご覧ください。

まず、取り組み内容の勤務時間管理の徹底と勤務時間を意識した働き方の推進におきましては、教職員に各自1台の校務用のPCを配置しており、ミライムというソフトウェアを活用し各自が出退勤時にそれぞれの時間を打刻することにより勤務状況を記録しております。管理職はミライム等の記録を活用して自校の教員の勤務時間を管理し、長時間勤務者に対しては業務負担軽減等の対応をするように教育委員会として指導を行っております。

平成30年度より夏季休業中における学校閉庁日を導入し積極的な年休取得の推進を行っております。ちなみに今年度は、8月11日から8月16日までとしております。

次に、教育委員会が主に夏季休業中に主催する会議・研修会の見直しと削減を行っております。これは、他に同様の研修会が行われたり、その研修に代わるものとして新規の事業が行われたりすることで削減等が可能と思われる研修会等の見直しを行っております。

次に2番目として学校を支える体制の整備につきましては、まず、専門スタッフの配置の促進としまして、学校生活支援員、ICT支援員、外国語活動支援員等ご覧の専門スタッフを学校現場に配置し、先生方のサポートをしているところでございます。

次のコミュニティ・スクールにつきましては、小学校は令和2年度から、中学校では令和3年度から全ての学校において学校運営協議会を設置しているところでございます。また、本市における地域学校協働活動は、学校運営協議会と同様に令和2年度から小学校、今年度から中学校で開始をしているところでございます。現在、協働活動プログラムを継続的・定期的には実施するための計画立案や実施に向けた協議等をしているところでございます。登下校の見守り、環境整備活動や体験学習などで各学校単位で様々な活動に取り組んでいるところでございます。

次の部活動の負担軽減でございますが、本市では中学校部活動の方針を平成30年11月に定め運用しているところでございます。その方針において長時間の部活動指導による教員の負担を軽減するため、週当たり2日以上以上の休養日を設けることとしております。そのうち、平日は少なくとも1日、土曜日・日曜日は少なくとも1日以上以上の休養日とすることとしております。なお、1日の活動時間は平日では2時間程度、学校の休業日は3時間程度として、できるだけ短時間に合理的かつ効率的、効果的に活動を行うこととしております。以上、簡単ではありますが教職員の働き方改革についての本市における主な取り組みについて説明を終わります。

加藤市長 事務局から説明がありました。コミュニティ・スクールの導入によるボランティアの効果的な活動について、教育委員の皆様のご意見をお願いしたいと思います。

本田委員 コミュニティ・スクールを充実させることによって、結果として働き方改革に効果が表れる。そういうことを期待していきたいなと思います。

コロナの影響もあって学校運営協議会の活動も含めて活動が十分進んでいないのかなと思います。

子どもたちの健やかな成長のために何が必要なのか、それは学校が担うものか、社会が担うのか、行政が担うのか或いは保護者や地域に協力いただけるものなのか、そういうことの慎重な検討が必要ではないかと思えます。また、具体的な実践に繋がるように熟議を重ねてきたと思えますが、話し合った方策が実働（ボランティア）に繋がらなければならないと思えます。東温市の中で小さな学校ではそのような協力体制ができていて、声をかければ直ぐに動いてくれることもあります。学校や学校運営協議会の委員だけがボランティアの確保に当たるというのは難しい面があると思っています。ボランティア確保のために学校がかえって忙しくなったということになれば本末転倒になるのではないかと思います。ニーズに対して誰がどのような協力ができるか、人材バンクに必要なものをどう育てていくか、その役割を果たすのが地域学校協働本部であり、コーディネーターの働きがコミュニティ・スクールの成功に繋がるのではないかと思います。

加藤市長 ありがとうございます。続きまして水岡委員をお願いします。

水岡委員 コミュニティ・スクールによって子どもたち、学校、地域が少しでも良い方向に向かっていって、いろんな地域の人たちに学校を知ってもらいたいと思えます。そのためには役割分担をしっかりと、教員にしかできないこと、地域の人たちにしかできないことに分けて1人ひとり何ができるか考えればいいなと思います。

子どもたちをどのように育てていきたいのか、どんな学校にしたいのか地域の方々の中には学校にもっと協力したいとか学校の様子をもっと知りたい人がいると思えます。地域の人たちがコミュニティ・スクールに参加した感想をHPなどで発信することによって、参加する人が少しずつ増えたらいいなと思います。

私も小学校のボランティア活動に参加していますが、例えば学校のミシンの授業や凧揚げなどの授業があれば経験豊富な方に補助に入ってもらいなど地域の人にボランティアは楽しいといったことが広がっていけば良いと思えました。

加藤市長 ありがとうございます。続いて清家委員をお願いします。

清家委員 ボランティアの効果的な活用ということで、学校訪問などを通じてどの学校もできているのではないかと思います。更に進展していくことを願っておりますが、学校に聞くところによると登下校の交通指導、見守り活動、緑化運動、環境整備はかなり助かっていると言われておりました。実際、教員の朝の時間は結構忙しいので、登校の子どもたちの安全が守られているということを感じながら靴箱や教室で子どもを待って一日のスタートができるということは教員にとって素晴らしいことであると思います。

もう一つは、地域の学習や体験的な学習をボランティアに講師としてお願いするという点についてはどの学校も行っていて、教員がしようとする一から勉強していろんな調査をしながら準備をするということになると思いますが、その道のエキスパートにお願いすれば、例えば田植えなどの知識はない訳ですから、その辺りが助かっているのではないかと。子どもと共に教員も地域の方に習って学ぶことができるので、子どもたちへの指導が深まりをみせるのではないかと。そういったところがどの学校にも見られております。特に、地域の方から指導を仰ぐときに素晴らしいなと思うことは、体験談や昔話を合間合間にされて子どもに少なからず影響を与えている。そういう面があるのではないかと。それを子どもが感じて考える機会も増えることから、ボランティアの人材バンクを充実させて多くの方に子どもに対する教育活動を進めてもらいたい。

加藤市長 ありがとうございます。続いて大西委員お願いします。

大西委員 少子高齢化が進んでいる社会にあって、コミュニティ・スクールの導入による地域の交流促進は非常に大事なことであると思います。特に保護者や地域住民にとっては、子どもたちが地域に住んで生活してくれていることが元気の源になると思います。そのためには、子どもたちの安全安心な環境づくりや学校行事も含めて地域行事と一緒に参加したいと考えております。先ほども話がありましたが、見守り隊とかそのようなことには親でなくても参加したいという地域のお年寄りたくさんおられると思います。また、学校にとっても学校運営の現状や課題をよく理解してもらって子どもたちの安全安心な環境づくりや学校行事に参加してもらうことが課題解決に繋がっていくのではないかと思います。そのためには学校運営の現状や課題等の情報を積極的に発信して保護者や地域住民に協力してもらうことで地域・学校の一番真ん中にいる子どもたちの安全安心な環境づくりや情操教育のプラスになると思います。

加藤市長 ありがとうございます。今までのご意見等を受けて露口先生の方から助言をお願いします。

露口教授 私は、本田委員さんと同じ発想でございまして、コミュニティ・スクールには4点セットが必要であり、協議会はどの学校にも置いていて、あと

学校側には地域連携担当の教員の配置が必要で、学校側の地域連携の核になる教員、これを教頭先生が務めるとなると2年ぐらいで異動してしまうので、ベテランの50代の（最後の学校で6年ぐらい努めることが可能な）先生を地域連携担当主任とか地域連携主任といったリーダーを配置する。それと地域では地域学校協働本部と何よりも地域コーディネーターがポイントになります。地域コーディネーターの配置効果は宇和島市で全教員を対象にした調査で明らかになっているが、地域コーディネーターを配置している学校は、先生方の負担感が減った。地域連携に関わる連絡調整が減ってきますので先生方の業務効率がすごく助かっているという声が上がっています。逆に地域コーディネーターがない学校は負担感が増して特に教頭先生の負担感が上がってきているので、やはり地域コーディネーターを配置していく必要があります。

あと、広島県では統括地域コーディネーターという地域コーディネーターの養成や研修をつくっていく方を退職校長などを活用して教育委員会において、コーディネーターの養成、研修、力量高揚目的として設置すると更にもう一段高いところを目指せるのではないかと思います。

東温市は人口流入が増えていると思いますが、小規模のコミュニティよりも人口が増加している地域の方がコミュニティ・スクールは必要かなと思っています。

加藤市長 ありがとうございました。検討事項は2点ありましたので、今のコミュニティ・スクール関係のまとめを教育長お願いします。

八木教育長 核となる人材の配置と、地域コーディネーターの配置は最も重要な部分であると思います。子どもが5月1日現在で2,655人いますが、関わっている大人が県費、市費合わせて290名が関わっています。大人一人に対して9.2人、10人弱が関わっていることになり非常に恵まれていると思います。290名のうち63人が市費でそのうち9人が国・県から補助があるため、純然たる市費の職員が延べ54名配置していることから他の市町と比較して支援は十分ではないかと考えています。その中で、生活支援員が39名在いて、大規模校では8名配置しています。新たに地域コーディネーターを配置するのは難しいと思われますので、市で配置している人材の活用を工夫できないかなと校長先生に呼び掛けています。

コミュニティ・スクールを導入することによって校長のリーダーシップが発揮しやすくなると考えています。一つは、地域学校連携本部との連携によって教員は学習指導だけではなく生徒指導面も生活指導面も全部関わっていることからそこを校長が人材を上手に活用していく。もう一つは、責任の部分であります。私も校長時代に学校の教育目標が古いなと感じて直したいなと思うことがありましたが、なかなか一人では判断できませんでした。コミュニティ・スクールを活用すると学校運営に対して学校運営協議会もある程度責任を持つようになることから協力しながら或いは校長

がしっかりと学校運営協議会のメンバーに自分の学校運営を説明しきれず、しきれないということであればどこかに問題があるわけで、そういう風なことで校長がリーダーシップを発揮しやすくなるのではないかと考えています。その辺りが校長の腕の見せどころではないかなと思っています。

私は、先生方の負担と責任のシェアがうまくできればいいなと思っていますが、本田委員さんの言われたように、それが目的ではなくてコミュニティ・スクール、学校運営協議会を充実させることによってそれが実現できるのではないかと思います。

加藤市長 ありがとうございます。時間も大分経ちましたので、検討事項の二つ目に入りたいと思います。部活動に対する保護者の意識改革と理解の推進について、同様に意見をお伺いしたいと思いますが、本田委員さんからお願いします。

本田委員 本市の部活動の休養と時間の制限は、全県的な流れだったと思っていますが、その辺りは納得してもらっているのかなと思います。保護者の中には子どもたちがスポーツを楽しめば良いと考えている方と強くなって欲しいと思われている方と二つに分かれいるのではないのでしょうか。楽しんでもらいたいと考えている保護者については部活動の狙い、子どもの健康面、学校の教員の状況を説明すれば納得いただけるのではないかと思います。強くなって欲しいと思っておられる保護者の方は今まで可能であったことができなくなることを理解するのが難しいのではないかと思います。技能を伸ばしたい生徒のための受け皿を用意しなければ根本的な解決にはならないのではないかと思います。学校体育と社会体育の協力体制の確立が大切ではないのでしょうか。現在、地域に根付いている剣道、柔道などのスポーツ団体のように社会に受け入れられている団体もありますが、種目によっては活動してないこともありますので 種目のカバーができるように地域スポーツクラブの充実も必要ではないかなと思います。

もう一つは外部指導者ですが、勝利至上主義の指導者では学校も困るので、部活動の意義や指導方法について学校と考えを共有できる指導者でなければならぬと思います。そのような指導者をボランティアだけ頼って確保することは難しいのではないかと思いますので、報酬等も予算化して適切な指導者が確保できるように考えていくべきではないのでしょうか。また、校内体制も熱心な先生が中心になってやっている部門があるかと思いますが、一部の教員の負担にならないように学校内でも役割分担をやっていって堪能な先生でなくても、種目の基礎基本になるような練習であれば堪能な先生に聞きながら関わりができると思いますし、複数の指導者制にすることで指導ができる先生が育っていくような流れ、体制にしていく必要があると思います。

加藤市長 ありがとうございます。続きまして水岡委員をお願いします。

水岡委員 現在、部活動が平日 2 時間、休日 3 時間の体制を知らない保護者がまだいるため、学校側に対して部活の時間が少ないとあって苦情を言ってくる保護者も中にはいます。保護者の意識も変えないといけないと思いますが、部活動は学校教育の一環であると思っています。負担になっている先生もいると思いますが、やりがいを感じている先生もいると思います。しかしやりがいを感じている先生の中でも時間の制約の中でやっているため、とても負担になっているのかなと思います。保護者の中には、途中で緩くなったなどと言ってくる保護者もいます。今までは 4 月当初に部活動の保護者会がありました。去年はコロナ禍で部活動の方針の説明もなかったことから、部活動ごとに保護者に対して状況や方針の丁寧な説明があれば保護者も納得していただけたと思います。

加藤市長 ありがとうございます。次に清家委員をお願いします。

清家委員 同じようなことになりましたが、部活動を積極的にしたい先生もおられて、部活動が苦痛な先生もおられると思いますが、昔はどの先生も競争して部活に取り組んでいたと思います。今は、時間の制限や休みがなければだめな時代になっていますが、先ほども話が出ましたが、どのように部活動を進めるか学校サイドのことが保護者も理解して、保護者も部活動に期待する面があると思いますので、その辺りのことがしっかり整理できれば理解が深まると思います。

過去に陸上部の指導者がいましたが、休みも十分に取って何かテクニクがあったのかもしれませんが、その先生が赴任する学校は全部強くなりましたが、そのように工夫をされて部活動を指導していた先生もおりましたので、それぞれの先生が違う観点から指導方法など見つめ直すことも大事になってくるのではないのでしょうか。それによって保護者の理解も得られるのかなと思います。

加藤市長 ありがとうございます。大西委員をお願いします。

大西委員 今の社会の変化の中で、先生の授業の指導、生活指導、授業準備、事務作業など仕事が増えて忙しくなっていく中で、更に部活動の指導もお願いすることは、長時間労働に繋がると思います。また、全ての先生がスポーツ万能ではないので、生徒にとっても先生が変わることによって適切な指導も受けられないという不満も出てくると思います。このような現状を考えると外部コーチを部活動指導員としてお願いすることによって先生にとっても生徒にとっても良いことだと思います。保護者には外部コーチに指導してもらうことによって高い競技力だけではなく身体機能に関する専門的な知識も教えてもらえる。技術指導だけではなく人間形成の指導もしてもらえる。といった外部指導者のメリットを保護者に十分説明して理解し

てもらおうことが大事であると思います。そのためには、予算を組んで外部指導者を雇用するための体制を整えていかなければならないのではないかと思います。

加藤市長 ありがとうございました。様々なご意見をいただきました。露口先生の方からお願いします。

露口教授 部活指導は二極化していて、やりたい先生と嫌だなという先生がいると思います。嫌だなと思う先生のために先ほど大西委員が言われました外部指導者をに入れて部活動の困難な先生のサポートをすることが結局子どもたちのためになると思います。ただ、国の方針待ちというところがあるので、案をつくりながらも国から出てくる方針を受けて進む方が良いかなと思います。

もう一つは、子どもたちが部活の時間をどのように捉えているのかということを愛媛県でも調査をしました。子どもたちが一番不幸な時間帯は授業中で、子どもたちにとっては部活動が幸せな時間であるということも分かりましたので、この時間を適切に確保してあげる必要があると思います。

加藤市長 ありがとうございました。教育長お願いします。

八木教育長 部活動は教育課程ではありませんが、教育的な価値は非常に高いということを知っていますが、それを示すエビデンスがないため今のお話ができるかなと思いました。

部活動の考え方については、私は従来、部活動をやりたい子どもがいて、応援する親がいて、面倒見てやろうという教員がいれば成り立つもので、どれか一つが欠けても成り立たないと思っていました。

重信中学校は昔から全員部活動制で、調べてみると県下で全員部活動制の学校は東温市の2校だけでありました。何とか変える必要があると思い、昨年度から重信中学校が、今年度から川内中学校が部活動の選択制に変わりました。重信中学校は1年目は97%の加入率で、今年は91%になりました。川内中学校は選択制になりましたが100%加入している状況だそうです。

私も将来的には部活動の外部指導員をお願いするべきだと思っていますがネックになるのが報酬と人材です。報酬については予算をやりくりしたいと思っていますが、人材については退職教員の意欲のある方と市職員の中にはスポーツ堪能で能力の高い人材もいますので、活用できるのかなと考えています。今はまだ案の段階ですが、人材をひねり出してこないと待っていては求める人材が集まってこないため、教育的な価値も高いということでは何とか考えていきたいと考えています。

加藤市長 小学校では様々な種目のスポーツ少年団の指導者が結構市内におりますが、その人たちが情熱をもって接した子どもたちが中学校へ上がってどれだけ伸びるか、少なくとも1種目だけで教えておりますけれども、子どもたちが中学校へ上がれば進むべき種目は自分で選んでそちらへ行けばいい。その後の流れの中で例えば体感を鍛えるとか様々な方式があるともいますが、そういった埋もれた人材が市内におられるので、そういった形で学校と地域と保護者の連携のもとにすれば、これからの指導の中で広がりがあるのかなと思っておりますので、今後の喫緊の課題として、人がいて子どもたちがいて学校の先生の実情があれば、その辺りもうまくコーディネートできれば、予算面も含めて、小学校の場合は全てボランティアですが、それらを加味して一つの方法としては有りかなと思っております。

加藤市長 その他で何かございませんでしょうか。
ないようですので、本日は露口先生には御多用中にも関わりませぬ貴重なご講演をいただきありがとうございました。これからも本市の教育行政にお力添えをいただければ幸甚でございます。

教職員の働き方改革を進めるにあたりましては、本日の意見交換等を参考に教職員の負担の軽減を図るという視点に立って、くたびれた時代の中ではございますが、教職員が健康で生き生きと働ける環境をつくっていく。それが子どもたちのためになっていくような教育になっていければありがたいなと考えております。

教職員の働き方の推進につきましては、引き続き東温市の課題の一つと考えておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

最後にその他で事務局から何かありましたらお願いします。

渡部課長補佐 令和3年度総合教育会議の実施回数についてご説明します。例年は総合教育会議において、教育を行うための諸条件の整備、その他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため、重点的に講ずべき施策についての協議を年3回実施しておりましたが、今後は、昨年度行いまし教育大綱の見直しや緊急の場合に講ずる措置等を協議する必要がない場合には年1回の開催としたいと考えております。

今年度につきましては、露口先生をお招きして講演会及び意見交換の場とさせていただきます。なお、例年総合教育会議で協議を行っております来年度の教育基本方針並びに重点施策の策定については、2月の定例会で提案をさせていただいて3月の定例会で承認していただきたいと考えております。

加藤市長 総合教育会議の考え方等について事務局から提案がありました。ご異議がなければこの方向で進めさせていただければと思います。

そのほかご意見がないようでしたら、本日の会議をこれで終了したいと思います。教育委員の皆様、貴重なご意見をいただき、また、露口先生にご講演いただき改めてお礼を申し上げます。引き続き教育委員会と市長部局が連携しながら子どもたちのために着実に歩みを進めてまいりたいと思います。今後ともよろしくご意見申し上げまして進行を事務局にお返します。

池田事務局長　それでは以上で令和3年度東温市総合教育会議を終了いたします。
皆様、お疲れ様でした。

11：40終了